

三里塚・ジェット闘争貫徹「国鉄35万人体制」粉碎!

# 4津田沼襲撃 15襲撃 「龍撃をしかけて敗退した」 事実を自己暴露!

## 遂に馬脚をあらわした「本部・デマ情報」

「動力車新聞・号外」と「青年部情報・号外」

デマにウソを接木して作文すること有名な「本部」暴力集団が、遂に自らの情報紙で「四・一五津田沼襲撃をした」事を、「写真」と「図解」を添えて自白した。四月二十三日付「動力車新聞・号外(34)」と四月二十四日付「動力青年部情報・号外」である。居直り強盗の論理よろしく白を黒と言いくるめ、「あえて客観的証拠たる写真を据えて、真実を明らかにする」などと大みえを切ったまではよいが、彼らの主観的意図とは裏腹に、それらがことごとく彼らのデマ性、彼らの厚顔無恥ぶりをボロボロと証明してしまっている。しかし、このように見えすいたデマをデッチ上げてでも、それを唯一の根拠に当局に「動力千葉を処分してくれ」と泣きつく彼ら反動分子、そして動力千葉つぶしのためには、「デマである事を承知の上で」なおかつこれを利用して当局の卑劣な弾圧策動をわれわれは断じて許すわけにはいかない。あらゆる力をもって徹底的に粉碎し尽くすことを宣言するものである。

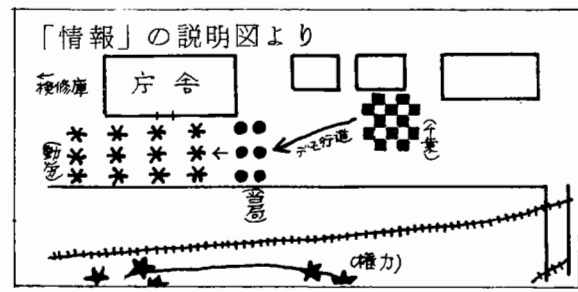
バケの皮はがれた第一のデマについて

「一方的被害者」を装おうと、  
下手くそなデマをねつ造

頭初より彼らは「動力部隊と庁舎の間は、デモ隊列が通るに充分の間隔が空けてあったにもかかわらず」動力千葉の隊列が「動力(「本部」)の集会めがけて：突入し、殴る、蹴るの暴行をしかけてきた」(「動力車新聞・号外(34)」より引用)以下「新聞」と略す)との状況説明をくり返してきた。もちろんこれは、すでに『本紙』で暴露してきたように、真赤なウソであるのだが、「本部」暴力分子は自らの津田沼拠点襲撃者としての反動的本性をおおいかくし、権力・当局に動力千葉を売りわたすためには自分たちを何とか「一方的被害者」として描き出そうと四苦八苦して、このようなデマをねつ造してきたのである。

例えば、先の引用部分だけをとり上げてそのデマ性は明らかだ。①彼らは「集会」などやっておらず、従って、動力千葉がそれに「突入する」などという事は、ありえない話である。(別の「情報」では「動員者のみの集会終了後、待機中」と言いかえているものもあるが、それともウソで、彼らの「本集会」なるものは、嶋田誠を司会として裏切り分子共を含めてまさにアリバイ的に十五分間(!!)ではやばやと終了し、あとは隊列を動力千葉の方に先頭をむけ、竿と石を用意させて襲撃態勢をとって玄関前通路をふさいでたむろしていたのである。)②また、以下詳述するが、「突入し暴行をふるった」のは他ならぬ彼ら自身の側であったという事実である。

自らの襲撃行為を、遂に「図解」入り  
で白状してしまった「本部」暴力集団



四月二十四日に発行された「動力青年部情報・号外」(以下「情報」と略す)を見るがよい。ここには、こていねいにも、わざわざ「図解」入りで、自らのウソを自己暴露してしまっているではないか! さすがに、当日の襲撃を現場指揮した「本部」革マル分子共は、問わず語りに自らの襲撃行為を証言してしまつたのである。(図参照)

そこでは、「通路は空けてあった」などとはウソもいい所で、事実上、二百六十名の「本部」へル部隊が玄関前通路を全部ふさいで「態勢を整え」「七くハメートル前方に位置する当局の阻止線」にむかつて「デモ態勢に入るや、その直後、両隊は衝突した」(いずれも「情報」より引用)と、かなり詳しく自らが、動力千葉の隊列にむかつて七くハメートルも前進突撃していった(注)「もちろん、この時に彼らの前方部隊が突っこみ、後方部隊が一齐に投石しつつ竹竿をもって、声を上げながら突撃し、素手でスクラムを組んでいた動力千葉のデモ隊列の中から多数の重軽傷を出すという蛮行が行われたのであるが」という事実を、はっきりと自己暴露しているのである。語るに落ちるとはこのことである。彼らの「事実説明」たるや、一事が万事この調子なのである。全国の仲間からも信用もされず「ああ、またか! :」とそっぽをむかれるのも、これでは無理もない。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!